

## 豚の去勢法に関する研究

穴井昭三・酒見武典・井 迪

(熊本県畜産試験場)

ANAI, S., SAKAMI, T. and I, T.

Studies on the method of castration of the growing finishing pigs.

従来の精巢除去による観血去勢法の肉豚は、枝肉取引上、上物規格適合率が雌豚に比べて低いため、ボールマッシャー器により精巢を控滅した無血去勢で肥育し、発育及び産肉性に及ぼす影響について検討したので、その結果について報告する。

### 1. 試験の方法

#### (1) 供試豚および試験区分

試験は2回にわけておこない、試験区分ならびに供試頭数等は第1表のとおりとした。

第1表 供試豚及び試験区分

試験回数	品種	生年月日	試験区分	供試頭数	試験期間	給飼料
第1回	LH・L	45. 4. 21	去勢区(1)	2	45. 6. 23	体重20~50kgの期間は豚産肉能力検定1号飼料。50~90kgは同2号飼料。不連続給与。
			B・M区(2)	2	1	
			雌区	2	45. 10. 10	
			計	6	(109日間)	
第2回	L・L	45. 6. 5	去勢区(1)	2	45. 7. 28	
			B・M区(2)	2	1	
			雌区	2	45. 11. 20	
			計	6	(115日間)	

注：(1) 観血去勢区 (2) ボールマッシャー区

### 2. 試験の結果及び考察

#### (1) 発育成績

発育増体については、第2表、第3表のとおりである。第1回試験ではB・M区が去勢区よりすぐれ、雌区が最も悪かった。一日平均増体量はB・M区が725g、去勢区694g、雌区が643gであったが各区分には有意な差は認められなかった。第2回試験は逆に去勢区がB・M区よりわずかながらすぐれていた。

第2表 発育成績(第1回試験)

区分	試験開始日齢	試験開始体重	試験終了時体重	増体量	所要日数	1日平均増体量
去勢区	62 <sup>11)</sup>	20.7 <sup>kg</sup>	90.1 <sup>kg</sup>	69.4 <sup>kg</sup>	100.0 <sup>11)</sup>	694 <sup>g</sup>
B・M区	62	21.8	92.8	71.0	98.0	725
雌区	62	21.3	90.1	68.8	107.0	643

第3表 発育成績(第2回試験)

区分	試験開始日齢	試験開始体重	試験終了時体重	増体量	所要日数	1日平均増体量
去勢区	53 <sup>11)</sup>	19.8 <sup>kg</sup>	90.2 <sup>kg</sup>	70.4 <sup>kg</sup>	103.0 <sup>11)</sup>	683 <sup>g</sup>
B・M区	53	20.7	90.3	69.6	103.5	672
雌区	53	19.6	89.8	70.2	110.0	638

#### (2) と体成績

と体の成績は第4表、第5表のとおりである。2回の試験をととしてロースの断面積はB・M区が小さく皮下脂肪の厚さの平均はB・M区が去勢区、雌区よりうすかった。しかし統計的には有意な差は認められなかった。枝肉中の赤肉量の割合は第1回試験において去勢区が51.8%、B・M区が57.3%、雌区が53.0%で去勢区とB・M区間に5%水準で有意な差が認められた。また第2回試験では脂肪量の割合が去勢区26.0%、B・M区19.9%、雌区25.2%で去勢区とB・M区間に5%水準で有意な差が認められた。

第4表 と体成績(第1回試験)

区分	枝肉歩留	ロースの断面積	皮下脂肪の厚さ(平均)	ハムの割合	枝肉中の割合			
					赤肉	脂肪	骨	皮
去勢区	75.0 <sup>%</sup>	20.9 <sup>cm<sup>2</sup></sup>	2.8 <sup>cm</sup>	31.5 <sup>%</sup>	53.8 <sup>%</sup>	26.0 <sup>%</sup>	11.6 <sup>%</sup>	8.6 <sup>%</sup>
B・M区	73.7 <sup>%</sup>	19.6	2.4	32.0	57.6	19.9	13.0	9.5
雌区	73.7 <sup>%</sup>	20.7	2.7	31.2	54.6	25.2	12.5	7.7
有意差検定	NS	NS	NS	NS	NS	※	NS	NS

注：と殺解体は湯割き法による。※P<0.05, NS 有意差なし

第5表 と体成績(第2回試験)

区分	枝肉歩留	ロースの断面積	皮下脂肪の厚さ(平均)	ハムの割合	枝肉中の割合			
					赤肉	脂肪	骨	皮
去勢区	70.3 <sup>%</sup>	19.3 <sup>cm<sup>2</sup></sup>	2.7 <sup>cm</sup>	30.3 <sup>%</sup>	51.8 <sup>%</sup>	25.4 <sup>%</sup>	12.6 <sup>%</sup>	10.2 <sup>%</sup>
B・M区	71.2 <sup>%</sup>	18.2	2.5	31.1	57.3	21.0	12.9	8.8
雌区	73.0 <sup>%</sup>	21.1	2.7	30.5	53.0	25.8	12.0	9.2
有意差検定	NS	NS	NS	NS	NS	※	NS	NS

### 3. 要 約

ボールマッシャー器による去勢と従来の去勢とでは、増体量については大差はないが、と体における皮下脂肪の厚さ、赤肉量および脂肪量の割合については、ボールマッシャーによる去勢がすぐれているように思われる。しかしボールマッシャー区においては、精巢組織の内臓転移などの問題点が残されている。